

(4) ①様式第4号-2 (報告書)

NITS カフェ報告書	実施機関名・連携機関名 実施機関 宮崎大学教職大学院 連携機関 宮崎県教育委員会 (教職員課・生涯学習課)
※ 機構記入欄 No. : -	セミナー名:「教員の働き方改革セミナー」 ～学校・地域の連携を通して～
<p>テーマ: 教員の働き方改革については、平成30年2月9日の「学校における働き方改革に関する緊急対策の策定並びに学校における業務改善及び勤務時間管理等に係る取組の徹底について（通知）」において様々な解決策が提案なされている。その中に学校における業務改善について「学校・地域の連携の促進」を通して解決してはどうかという指摘がなされている。それを受けて宮崎大学教職大学院と宮崎県教育委員会は学校・地域の連携を通して教員の働き方について迫るテーマを設定した。</p>	
<p>内容: 平成31年1月22日（火）宮崎大学第1会議室において宮崎大学教職大学院と宮崎県教育委員会との連携・協働支援事業として「教員の働き方改革セミナー（NITS カフェ in 宮崎大学）～学校・地域の連携を通して～」の研修会を開催した。最初に宮崎県教育委員会教職員課が「教員の働き方について」続いて生涯学習課が「学校・地域の連携について」説明を行った。次に地域住民等4名の方々に地域等での取り組みとして「学校の業務支援の活動」について発表をして頂いた。 地域住民等4名の発表のテーマは次の通りです。 (1) 教職員の負担軽減と KSSVC (2) 「教員の多忙化」に地域としてどう対応していくのか。 (3) 学校支援地域本部事業における「はげまし隊活動」について (4) 学校における業務支援の在り方 これらの発表を受けて発表者が活動している学校からコメントを頂いた。内容は発表者の「学校の業務支援の活動」は学校にとって「教員の負担軽減」等から大変な貢献を頂いている旨のコメントであった。 グループディスカッションでは、自分の地域（学校）で既に実践している学校の業務支援の活動例の紹介や学校の業務を軽減するために、本日の4名の地域住民等の発表等で出された意見を参考にしながら「学校の業務を軽減するために学校と地域との連携構築をどのように図っていけばよいか、またそのためには今後どのような取り組みが必要か」等について話を深めていった。。そのグループディスカッションに随時、教育委員会関係者・教職大学院教員が加わって議論を深めていった。参観者の教職大学院生と学部3年生は説明や発表の時は会場の後方席からグループディスカッションの時は近くに移動して討論の様子を参観した。最後に宮崎大学教職大学院の湯田拓史先生が学校・地域の連携の視点から教員の働き方についてまとめを行った。今後の方針としては宮崎県教育委員会では、すでにマネージメントリーダー養成塾で「教員の働き方」について取組んでおり、今回の「NITS カフェ」を契機として今後、宮崎大学と宮崎県教育委員会との連携を継続発展させて、教員の働き方について資する取組みを広げていく方針である。</p>	

成果：

アンケート結果からは「学校の業務を軽減するために、学校と地域との連携構築をどのように図っていけばよいか。またそのためには今後どのような取り組みが必要かについての議論が深まったか」の問いに対して「とても議論が深まった」が61%、「議論が深まった」が39%であり研修会の目的は、ほぼ達成できたと考えている。

○ 参加者の感想として

- ・様々な立場の方から「働き方改革」「教員の負担軽減」について話を聞くことができた。地域とともに子ども達を育てるという目的に向かって歩いていくことがひいては「教員の負担軽減」に繋がると感じた。
- ・地域力にこれだけの差があるとは思わなかった。地域力が教員の負担軽減に繋がるという発想がなかったため、大変勉強になった。

アイデアや工夫したこと：

- ・色々な視点から「教員の働き方」について参加者に考えてもらうために違った分野で学校の業務支援に活躍されている県内の地域住民等の方々4名を選び発表者としたこと。
- ・学校の業務支援の活動は、「働き方改革」や「教員の負担軽減」の目的のためにだけ行われる活動ではないことも念頭にNITSカフェを進めていったこと。
- ・発表者の「学校の業務支援の活動」が行われている学校の先生から発表者の活動が「働き方改革」や「教員の負担軽減」の視点から貢献している旨のコメントを発言して頂ける場面を設定したこと
- ・グループディスカッションを深めるために1か月前にグループディスカッションの柱を伝えておいたこと。

<写真>



宮崎県教育委員会教職員課主幹の説明



県教育委員会生涯学習課副主幹の説明



学校の業務支援に活躍されている県内の地域住民等の方々4名の発表